



清水北小学校だより

このゆびとまれ

No. 10

R5. 3. 15



※学校だよりはHPでもご覧いただけます

いよいよ令和4年度も最後の月を迎えました。3月に入ってからは寒さもやわらぎ、校庭の桜のつぼみに春の訪れを感じることができるようになりました。去る3月14日には、新型コロナや季節性インフルエンザの影響が心配される中、なんとか無事に卒業式を行うことができました。これもひとえに保護者の皆様のご理解とご協力の賜と、心より感謝申し上げます。

校長式辞では、「卒業は自身の努力の賜であるが、これまでには家族や地域の方々の支えがあったこと」「コロナで我慢を強いられた1年であったが、できることを工夫してやり抜いたこと」「6年生が最も成長したのは、みんなで協力してやり遂げる団結力であること」を話しました。

新型コロナの状況は落ち着きを見せ、今後は第5類への移行を見据えて、様々な対策がこれまでと変わってくるのが予想されます。これからも子供たちの安全安心のため、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新たなる旅立ちへ



「卒業証書授与」

真剣なまなざしが素晴らしい



「体育館掲示」

在校生は顔写真で参加



「別れの言葉」

映像を使って無言で行いました



「渡り廊下掲示」

在校生の力作です



「来賓祝辞」

PTA会長塚本様より



「集合写真」

小学校最後の日の記念に

— キ ャ ー ト ー ー

返信欄 (ご意見・ご質問・ご感想等ありましたらお願いします) 氏名 (年)

除雪ありがとうございました

今年の冬も一時的にかなりの積雪となり、学校の除雪機をフル稼働しても除雪が進まず困っていましたが、除雪車両を保有している保護者の方にご協力をいただき、なんとか切り抜けることができました。ありがとうございました。また、学校前の歩道は、車道よりも早く除雪されていて、集団登校の子供たちが安全に通ることができました。学校前だけでなく、通学路になっている各町内の歩道も、かなりの部分がきれいに除雪されていました。本校の子供たちは、地区の方々からもあたたかく見守られていると感じました。地域の皆様、本当にありがとうございました。



「北っ子の生活」の見直し

来年度（4月）から「北っ子の生活」を一部見直します。変更点は以下の通りです。

髪のコムについて…【現】飾りのない無地のコム（黒・茶・紺色）で結ぶ
【新】飾りのないコム（派手すぎないもの）で結ぶ。

これは、PTAの運営委員会で話題に出たことを受け、5・6年生の子供たちにも話し合ってもらい、決めたものです。子供たちからは、「色は何色でもいいと思う」「飾りは大きかったり派手だったりしたら授業の邪魔になると思う」「色は、目がチカチカしない色がいいと思う」「今のままでいいと思う、目立たない方が髪の色に合っていると思う」など、きちんと理由や根拠を挙げて考えてくれました。このようなことをきっかけとして、子供たちが「自分たちの学校」という意識を高めてくれることを期待します。

新型コロナ第5類へ

5月から新型コロナが第5類へ引き下げられることが、報道等で話題になっています。それに伴い、学校等でのマスク着用ルールも変わろうとしています。3月14日に行われた卒業式は、卒業生は原則マスクなしでの参加（着用を希望する者はマスクを着用してもよい）、保護者の方やご来賓には着用を求めるという方針で行いました。今後、世の中全体でも脱マスク化が進むと予想されます。これまでとは違った考え方で新型コロナと向き合うことになると思われるので、子供たちが混乱しないように丁寧に時間をかけて指導していきたいと考えます。



【返信ありがとうございました】※全てを掲載することができず申し訳ありません

- ・修学旅行が県外に行けて良かったです。天候はあまり良くありませんでしたが、とても楽しかったようです。ありがとうございました。
- ・修学旅行、京都に行けて良かったですね。少しずつ以前の形に戻っていったらいいなと思います。たくさんの思い出を作ってほしいです。
- ・1年間ありがとうございました。初めての小学校、娘も私も不安でしたが、先生から何かあれば連絡頂きましたし、娘も楽しそうに通っています。来年もよろしくお祈りします。
- ・6年間お世話になりました。これからも子供たちが楽しく学校生活を送れるようにお願いします！
- ・アンケートに集められた少ない意見にも目を向けながら、少しでも良い評価なるよう、子供たちが楽しく過ごせるようになるといいですね。
- ・コロナ濃厚接触者になった場合など、体調が悪くない場合に休まないといけなくなった時に、iPadで自宅学習ができるといいです。
- ・学校からテストを持って帰ってくる度、この前間違えていた問題が次のテストではできるようになっていて、子供から一生けん命な「心」を教わる時があります。それが、何より誇らしいのです。